

福知山市の下水道事業を考える

- 1 福知山市の総合計画における下水道事業
- 2 福知山市の下水道事業を考える
- 3 基本方針(下水道事業の方向性)



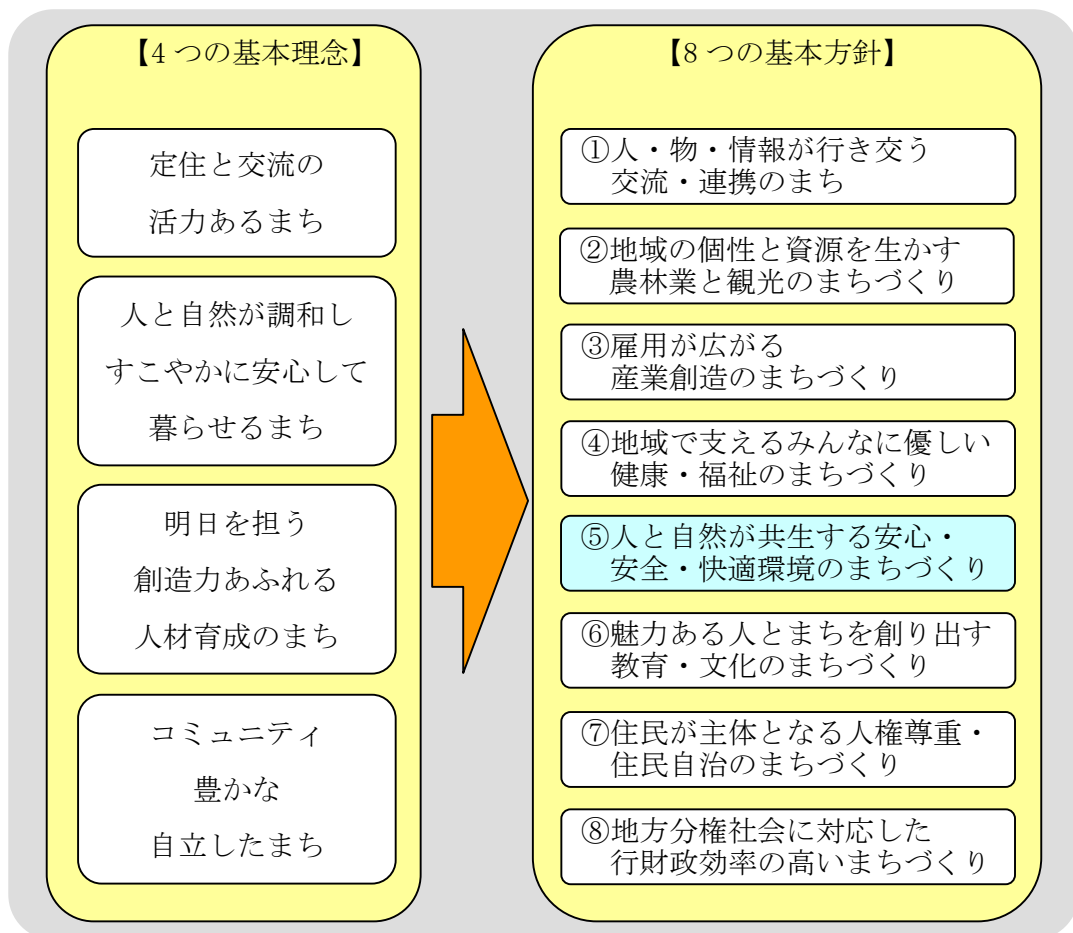
三和浄化センター

福知山市の下水道事業を考える

1 福知山市の総合計画における下水道事業

福知山市では、新しい『福知山市』の速やかな一体性の確立と地域の個性を活かした均衡ある発展を目指して、『第4次福知山市総合計画』を平成20年3月に策定しました。

この総合計画は、『4つの基本理念』をまちづくりの方向性として、『8つの基本方針』を示しています。これら8つの基本方針のうち、下水道事業が果たすべき役割(方針)としては、『人と自然が共生する安心・安全・快適環境のまちづくり』が該当します。



第4次福知山市総合計画の『4つの基本理念』と『8つの基本方針』

『人と自然が共生する安心・安全・快適環境のまちづくり』では、6つの施策の大綱が示され、下水道事業は『循環型社会形成の推進』において、下水道整備率の向上(未開発区域を除く)が挙げられています。これ以外にも、合流式下水道の改善による大雨時における河川への汚濁物質流出の削減や下水道施設の耐震化推進、処理場などの施設の計画的な設備更新と適正な維持管理、独立採算制を踏まえた料金の適正化などを挙げられています。

2 福知山市の下水道事業を考える

福知山市の下水道事業は、公共下水道事業だけでなく農業集落排水事業などとの連携や、これまでの長年の整備の結果、汚水処理人口普及率が平成 20 年度末で 97.5%となり、汚水整備については概成と言えるまでになり、市民の生活環境の改善や公共用水域の水質保全に大きな役割を果たしてきました。

また、浸水対策についても、福知山地区における重点整備の効果が見えてきている他、大江地区では、河川事業による対策が進められるなど、関係機関の連携のもと、地域の特徴に応じた進展を図っています。

しかし、各種の整備がその成果を発揮する一方で、下水道事業による整備施設・資産は、膨大な量となり、且つ多種多様な施設を抱え、中には老朽化施設も多く存在するなど、今後の事業運営を考える上で重要な時期となっています。

さらに、人口減少、景気の悪化等を背景に財政事情が厳しさを増す中、福知山市の今後の下水道事業を考える上で、地域にとって本当に必要なこと、求められる下水道事業を明確に捉え、効率的・効果的に事業を進めることが必要となっています。

ここで、今後の下水道経営に深刻な影響を及ぼすと考えられることから、大きな懸案として捉えられる、「人口減少」とこれに密接に関連する「経営予測」の概要を以下に示します。

《短期的人口および経営予測》

(1) 人口予測

本市の人口は、国勢調査では、平成に入ってから、約 82,000 人を前後に横ばい状況が続けていましたが、最近の傾向としては減少傾向が続けています。

また、国勢調査をベースとした推計人口では、平成 21 年 4 月 1 日時点で約 79,900 人となっており、京都府が策定した「若狭湾西部流域別下水道整備総合計画」の本市計画人口約 79,800 人(平成 35 年度)と、ほぼ同じ数値となっています。この計画は、平成 15 年度までの資料に基づいて作成された将来人口推計値によっているためであり、それ以降、急激に人口減少が進行していることを示しています。

一方、本市第 4 次総合計画においては、平成 27 年に 90,000 人を目標とした都市づくりを目指していますが、下水道ビジョン策定においては、人口減少を前提として、今後の議論を進めていきます。

なお、表-8 に示す、本市の近年の人口推移から、地区によって差異はあるものの、一様の減少傾向となっていることが読み取れます。

表-8 近年の人口推移（住民基本台帳ベース）

		平成 16年度末	平成 17年度末	平成 18年度末	平成 19年度末	平成 20年度末	5年間の 推移
旧福知山市地区	人口(人)	68,992	68,880	68,650	68,233	68,083	
	前年差(人)	-156	-112	-230	-417	-150	-1,065
	増減率	-0.23%	-0.16%	-0.33%	-0.61%	-0.22%	-1.54%
三和町地区	人口(人)	4,425	4,373	4,287	4,223	4,177	
	前年差(人)	-42	-52	-86	-64	-46	-290
	増減率	-0.94%	-1.18%	-1.97%	-1.49%	-1.09%	-6.49%
夜久野町地区	人口(人)	4,831	4,715	4,625	4,526	4,417	
	前年差(人)	-70	-116	-90	-99	-109	-484
	増減率	-1.43%	-2.40%	-1.91%	-2.14%	-2.41%	-9.88%
大江町地区	人口(人)	5,684	5,607	5,544	5,443	5,381	
	前年差(人)	-77	-77	-63	-101	-62	-380
	増減率	-1.34%	-1.35%	-1.12%	-1.82%	-1.14%	-6.60%
合計	人口(人)	83,932	83,575	83,106	82,425	82,058	
	前年差(人)	-345	-357	-469	-681	-367	-2,219
	増減率	-0.41%	-0.43%	-0.56%	-0.82%	-0.45%	-2.63%
旧3町合計	人口(人)	14,940	14,695	14,456	14,192	13,975	
	前年差(人)	-189	-245	-239	-264	-217	-1,154
	増減率	-1.25%	-1.64%	-1.63%	-1.83%	-1.53%	-7.63%

表-8 より、事業区域別人口減少率(年率)は概ね下記の通りとなっています。

- 公共下水道事業 : 年平均 0.31% (5年間で 1.54%)
- 特定環境保全公共下水道事業 : 年平均 1.53% (5年間で 7.63%)
- 農業集落排水事業 : 年平均 1.53% (5年間で 7.63%)

本市の下水道も、今後、旧計画のような人口増が見込めないことから計画縮小が必要となり、平成 21 年 3 月に処理場の増設計画を見直しました。その結果、約 100 億円のコストを縮減することができました。(図-16 参照)

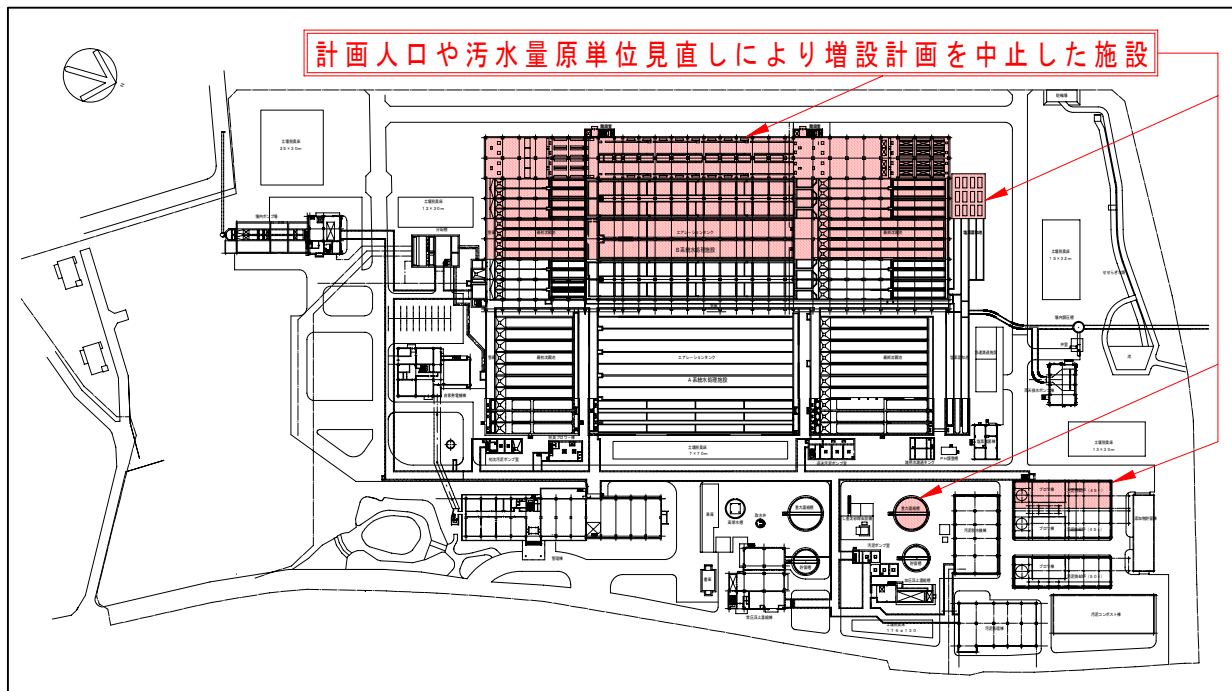


図-16 福知山終末処理場の増設見直し

(2) 経営予測

本市の下水道使用料収入は、公共下水道事業区域(特定環境保全公共下水道事業区域含む)では平成17年度の約1,620百万円をピークに減少傾向にあります。

一方、農業集落排水事業区域では、使用料収入が順調に伸び、平成20年度に約201百万円となっています。これは、平成18年度に供用を開始した有路処理区をはじめ、水洗化の普及がまだ進行していることなどによります。

このことは、有収水量から見ても、ほぼ同様の傾向が見られます。

しかし、下水道整備が完了した中で、今後、特別な状況(各種施設の立地)がない限り、人口減少とともに、有収水量が落ち、使用料収入が減少して行きます。

そのため、今後は、使用料収入減少に応じた下水道運営を行っていく必要があります。

(表-9 参照)

表-9 福知山市の下水道事業・農業集落排水事業の使用料収入減少予測

	毎年の収入減少率 ¹	10年後の収入減少率
公共下水道事業	0.31%	3.1%
特定環境保全公共下水道事業	1.53%	14.3%
農業集落排水事業	1.53%	14.3%

注記) 毎年の収入減少率は、前出表-8の人口減少率(年平均)と同値とする。

本ビジョンは、下水道事業を取り巻く様々な課題に対する施策展開を行うものですが、この収入減少予測を踏まえ、経営環境が厳しくなることを念頭に置くものとします。

《福知山市の下水道事業の方向性》

以上のように厳しい条件のなかで、これまでの整備や市町合併により、膨大で多様な施設を抱える事となった福知山市の下水道事業は、今、新市の全体を見据えて、総合的な方向性を明確にする必要があります。

そのため、まずは、これまでの事業成果や下水道の基本的な役割、求められることを今一度検証する事が重要であると考えました。

そこで、『下水道事業の原点』に立ち帰り、“市民生活ために今後の下水道はどうあるべきか”、“重要な環境基盤施設である下水道が自然・環境のためにどうあるべきか”、そして、“下水道を持続的に発展させ次世代に伝えていくにはどうあるべきか”に分類し、それぞれの課題を整理し、方向性を示すこととします。

3 基本方針（下水道事業の方向性）

福知山市の下水道事業の方向性を提示するにあたり、“市民生活のためにできること”、“自然・環境のためにできること”、“次世代のためにできること”に分類し、福知山市下水道ビジョンの基本方針を定め、各種施策を推進します。

福知山市下水道ビジョンの基本方針

市民生活のためにできること

安全・安心を届ける

- 浸水対策
- 地震対策
- 下水道管きよに起因する道路陥没事故の防止

快適な暮らしを届ける

- 水洗化事業の普及促進による生活環境の改善

自然・環境のためにできること

豊かな自然や地球環境に貢献する

- 合流式下水道の改善
- 省エネルギー・資源循環・地球温暖化防止対策の推進

次世代のためにできること

下水道施設を維持し、次世代に繋ぐ

- 下水道資産の適正な維持と改築
- 安定した下水道運営を実現する